

神戸学院大学

2009

Green Festival

第279回

5月9日(土) 15:00 開演

●林 裕(チェロ)
ボリス・ベクテレフ(ピアノ)

デュオの午後

第280回

5月23日(土) 15:00 開演

●海老彰子 ピアノ・リサイタル

第281回

5月31日(日) 13:30開演 (開演時刻にご注意ください)

●神戸学院大学吹奏楽部 第23回サマーコンサート

客演指揮/松井 隆司

第282回

6月6日(土) 15:00 開演

●フランティシェック・ノヴォトニー(ヴァイオリン)
伊藤ルミ(ピアノ)

デュオの午後

第283回

6月13日(土) 15:00 開演

●尾高忠明
尾高遵子

トークとピアノの午後

第284回

7月4日(土) 15:00 開演

●仲道郁代 ピアノ・リサイタル

-モーツアルト ピアノ・ソナタ全曲連続演奏 第3回-

第285回

7月18日(土) 15:00 開演

●男と女のコンテンポラリー～現代ダンスへの誘いⅡ

アローダンスコミュニケーション、セレノグラフィカ



会場／神戸学院大学(有瀬キャンパス)メモリアルホール(9号館6階)

主催／神戸学院大学 後援／兵庫県、(財)神戸市民文化振興財団 参加／関西元気文化圏

●お申込方法 | 往復ハガキを使用してください。私製ハガキや2枚のハガキの貼り合わせは避けてください。申込者多数の場合は抽選になります。

・往信裏面に①公演日 ②公演名 ③住所 ④氏名 ⑤電話番号をご記入ください。

・返信裏面にお申し込みの方の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。

・返信裏面は空のままにお願いします。

・1枚につき1公演、1名様のみのお申し込みになります。

・受付期間は各公演の1ヶ月前～2週間前(必着)です。

・学齢期に達していないお子さまの申込および入場はできません。

~個人情報の取扱について~

入場申込往復ハガキにご記入いただいた個人情報は、申込内容の電話での確認、

入場券の発送(抽選の場合の結果通知含む)、申込状況の統計分析に使って使用します。

●お申し込み・お問い合わせ先

〒651-2180 (郵便番号のみで到着します)

神戸学院大学グリーンフェスティバル系

電話078-974-6105 (担当部署：企画部 広報・渉外グループ)

●交通経路と所要時間

① JR「明石」駅より「神戸学院大学行」バスに乗車(約20分)

② 神戸市営地下鉄「伊川谷」駅より「神戸学院大学経由明石駅行」バスに乗車(約15分)

③ JR「朝霧」駅より神姫バス「神戸学院大学行」バスに乗車(約10分)（運行本数少）

お車でのご来場は園内お断りいたします。

入場無料

<http://www.kobegakuin.ac.jp/>

林 裕・ボリス・ベクテレフ デュオの午後

- 曲目 ●ブレヴァル チェロ・ソナタ長調 作品12-5 ●ポッパー コンサート・ポロネーズ 作品14
 ●カサド アチャーレス ●プロコフィエフ チェロ・ソナタ ハ長調 作品119
 ●ダヴィドフ 噴水のはとりで 作品20-2

林さんは日本音楽コンクールで第1位を取られたあと、大阪フィルで首席をつとめられたこともあり、ソロや室内楽で活躍中です。チェリストが書いた作品に大きな関心を寄せられており、前半にはそんな作品が並んでいます。曲名こそ皆様にはあまり馴染みがないかもしれません、この楽器の良さを知り尽したチェリスト=コンポーザーならではの、旋律の華やかさにあふれた名曲が揃いました。ソヴィエト・ピアニスト・コンクールの覇者ベクテレフ氏とのデュオをお楽しみ下さい。お二人ともグリーン・フェスティヴァル初登場です。

海老影子 ピアノ・リサイタル

- 曲目 ●J.S.バッハ 半音階的幻想曲とフーガニ短調 BWV.903 ●ショパン 即興曲 第3番 変ト長調 作品51
 ●ベートーヴェン ピアノ・ソナタ 第32番 ハ短調 作品111 ●ショパン バラード 第4番 ヘ短調 作品52
 ●ショパン 即興曲 第1番 変イ長調 作品29 ●ラヴェル 夜のガスペール

過去3回の登場の際に満場を大いに沸かせた海老さんの久々のグリーン・フェスティヴァル出演です。昨秋には名ピアニストのマルタ・アルゲリッチさんと2晩にわたり2台のピアノによるコンサートをフランスのリヨンで披露され、その模様は全ヨーロッパで放映されました。その誠実な人柄が演奏によく反映されていることはお聽き下さればご理解いただけるでしょう。海老さんはいつも曲目にリクエストはあるかと聞いて下さるのですが、そのお言葉に甘えてショパンとラヴェルを必ず、できればベートーヴェンも申し上げたら、ごらんのような素晴らしいプログラムを組んで下さいました。

神戸学院大学吹奏楽部 第23回サマーコンサート

●客演指揮／松井隆司

- 曲目 ●アップベルモント作曲／ノアの方舟
 ●2009年度全日本吹奏楽コンクール 課題曲、自由曲他

■今年のテーマ “As One～その瞬間に情熱を”

今年度のサマーコンサートは、例年とは違った多くの企画を用意しています。
 お一人でも多くの方に喜んでいただけるよう、新入部員含め部員一同精一杯演奏いたします。
 皆さまに日頃の感謝の気持ちを込めて…
 皆さまのご来場、お待ちしております。
 詳しい情報はこちらへ <http://sound.jp/sininbrass/>

フランティシェック・ノヴォトニー・伊藤ルミ デュオの午後

- 曲目 ●シユーベルト 幻想曲 ハ長調 D.934 ●ラフマニノフ ヴォカリーズ 作品34-14
 ●バガニーニ ロッシーニの《モーゼ》の主題によるG線上の変奏曲 ●サン=サーンス ヴァイオリン・ソナタ
 ●ドヴォルジャーク マズレック ホ短調 作品49 第1番 ニ短調 作品75

神戸にご在住の伊藤さんはチェコの名ヴァイオリニスト・ノヴォトニー氏と組んで10年以上にわたり、名演を披露しておられるのみならずCDもいろいろと出しておられますから、既にお聴きになっている方も多いでしょうが、初めてグリーン・フェスティヴァルへお迎えすることになりました。伊藤さんは以前はソロもよくなさいましたが、近年は室内樂にたいへん力を入れておられ、長年のコンビのみが生み出せる味の濃いアンサンブルをお楽しみ下さい。曲目も魅力的で、シユーベルトは昔からよくプログラムに見かけますが、サン=サーンスも最近とりあげるヴァイオリニストが多くなっています。

尾高忠明・尾高遵子 トークとピアノの午後

- 曲目 ●尾高惇忠 童話の国 より お祈り/お遊び/雪渡り ●ドビュシー 喜びの島
 つりがね草/小川のはとりで/愉快なトランペット吹き/魔女たちの踊り ●ドビュシー 小組曲 より(ピアノ連弾)
 ●エルガ 愛の挨拶 作品12 ●フォーレ ドリー 作品56 より(ピアノ連弾)
 ●シベリウス もみの木 作品75-5道化芝居 作品76-13/即興曲 作品55 ●ラヴェル マ・メール・ロワ より(ピアノ連弾)

尾高氏は皆様ご存じのとおり、ヨーロッパと日本で超多忙のスケジュールをこなしておられる名指揮者。かつて10年近くにわたり、英国BBCウェールズ交響楽団の音楽監督として、地方オーケストラ的であったこの楽団を世界的なレヴェルに引きあげて、エリザベス女王より大英勲章CBEを授与されました。お話をたいへん巧みなので、奥様によるピアノを挟みながらのトークものを2000年春に披露したところ大好評で、再演のご要望を多く受けしておりました。奥様との連弾まであるこの企画、楽しんでいただけるものになること間違いありません。

仲道郁代 ピアノ・リサイタル

- 曲目 ●モーツアルト ピアノ・ソナタ 第7番 ハ長調 K.309 ●モーツアルト 幻想曲 ニ短調 K.397
 ●モーツアルト ピアノ・ソナタ 第8番 イ短調 K.310 ●モーツアルト フランスの歌《ああ、ママに言う
 ●モーツアルト ピアノ・ソナタ 第9番 ニ長調 K.311 わ》による12の変奏曲 ハ短調 K.265(きらきら星変奏曲)

1回目、2回目と超満員の会場を沸かせた郁代さんによるモーツアルト連続演奏。その演奏は熟考の跡がうかがえるので、いただくご感想は絶賛の文言にあふれています。最初期の作品を終わって、この3回目からは皆さんよくご存じの有名な作品が並びます。変奏曲はこのメロディを聴いたことのない人など考えられませんし、3曲のソナタはどれも多くのピアニストが再々手がける名曲、とくに短調の味わい濃いK.310は同じく短調の幻想曲ともども聴きものです。今回も演奏の合間に、皆様からのご質問を中心にして、お話を伺う予定です。

男と女のコンテンポラリー～現代ダンスへの誘いII

- 出演 アローダンスコミュニケーション、セレノグラフィカ

コンテンポラリー(contemporary)は、「現代の」と訳されますが、むしろ「同時代の」と言ったほうがしっくりきます。実はtemporaryには「暫定的な」「一時の」という意味があるって、あえて解釈すると、価値が定まっていない暫定的な芸術にでも、同じ時代を生きる者として同行していくじゃないか…という心意気をあらわした言葉のようにも思えるのです。

今回ご紹介するセレノグラフィカ(ダンス: 隅地茉歩、阿比留修一)、アローダンスコミュニケーション(ダンス: ヤザキタケシ、松本芽紅見)は、共に男女ペアの作品での登場です。海外での作品発表も多く、日本のコンテンポラリーダンスを切り拓いている人たちです。現代のダンス、身体表現の一つの頂点を観ていただくと共に、女と男の関係の「暫定性」のようなものが見えてきたら、それはそれで面白いのではないでしょうか。楽しんでいただくための工夫もいくつかご用意しています。どうぞお気軽にご来場の上、心を開いてお楽しみください。